

国際共同発掘調査

唐長安城大明宮太液池

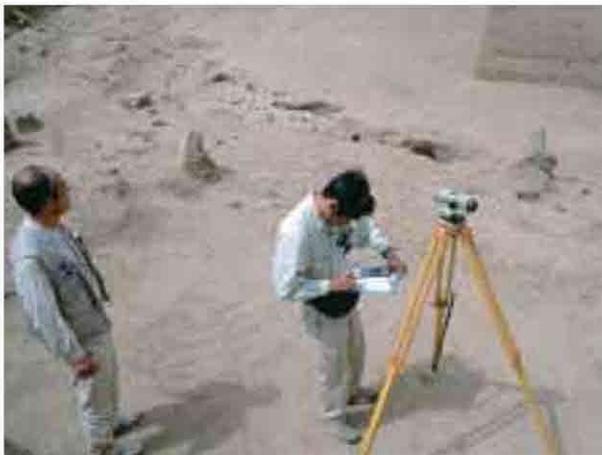
中国社会科学院考古研究所との共同による太液池たいえきちの発掘調査は平成13年度より開始し、今年が最終年度となります。春の発掘期間中には7名の所員が調査に参加し、大きな成果をあげました。去る5月17日には発掘現場にて日中両国の記者に対して説明会をおこない、翌日、日本の新聞でも報道されました。

太液池は唐長安城大明宮の北半中央に位置します。池の規模は東西484m、南北は310mあります。両研究所は過去4年の調査で、池の西岸、北岸、池中の島、池南側の丘陵上を発掘してきました。

4次にわたる調査では多くの遺構を検出しています。池岸は版築で造営され、汀には木杭みぎわの護岸や庭石がありました。岸沿いには道路や回廊状の建物がめぐり、池に臨む建物、排水施設や井戸なども検出しました。池中にたつ蓬莱島の南側には、石組の貯水池や蛇行する水路、東屋、庭石が配置され、州浜すはま状の遺構もみわかりました。池南側の丘陵上では、回廊と中庭からなる建物群がみわかり、象や灯籠の石製彫刻が出土しています。

今年度は池の南岸に調査区を設定しました。発掘総面積は約2800㎡です。2月から作業を開始し、5月末に終了しました。発掘の結果、池岸から池中に張り出す釣殿つりどの状の建物、磚を積み上げてつくった護岸施設、池岸をめぐる道路、雨水などを集めて池に流し込む排水溝などが検出されました。

宮城内に位置する池の全貌を明らかにしたのは、中国でも初めてです。日本や朝鮮半島の古代庭園研究において、ひとつの指針を示すものといえるでしょう。
(平城宮跡発掘調査部 今井 晃樹)



太液池での発掘調査風景